

渡邊英夫(著)

「脳卒中の下肢装具 —病態に対応した装具の選択法」

川村次郎
(日下病院名誉院長)

渡邊英夫先生がこれまで長年にわたり装具についての紹介や解説を、学会誌『リハビリテーション医学』や『日本義肢装具学会誌』、臨床雑誌『総合リハビリテーション』などに、またリハビリテーションや装具に関する単行本に数多く執筆されていることは周知の通りである。また独自に創案された「すぐ装着できる下肢装具」もよく知られている。本書はその渡邊先生が脳卒中の下肢装具についてまとめられたハンディーな実用書である。

脳卒中の下肢装具の種類は実に多種多様で、脳卒中リハビリテーションや装具の専門家でさえも、各装具がどのような構造の装具で、その機能や特徴が何なのかを直ちにイメージするのは容易ではないのが現実であろう。かつて筆者は脳卒中の下肢装具の構造や特徴をまとめた一覧表はないものかと数多くの単行書を参照したが見つけることができず、自ら作成しようと内外の数百のオリジナル論文の収拾と整理に随分苦労した経験がある。数多くの下肢装具の中から目の前の脳卒中片麻痺患者に最適の装具を選択するのは、脳卒中リハビリテーションに従事する医師にとっても容易ではないのである。

医療に関する権限と責任は医師にあるのが原則であり、装具の公的給付においても法制度上は医師に任されているのである。しかしながら実際の臨床場面では、医師以外の理学療法士、作業療法士、義肢装具士、看護師、医療ソーシャルワーカーなどが参加するチームの合議によって装具の処方内容の選択が行われること

が多い。また療法士や義肢装具士、看護師、ソーシャルワーカーなどが処方された装具について患者や家族に説明する際にも困難を伴うものである。

本書には現在使用されている脳卒中下肢装具のほとんどすべての種類について、著者が学会での商業展示などで実物を見たり、入手したパンフレットや私信で尋ねた内容を元に著者の経験や考えを加えて、しかも美しいイラストと実物の写真を示して各装具の機能などがわかりやすく説明されている。そのため、この一冊を手にするだけで脳卒中の病態から各装具の特徴と機能に合わせた選択法を理解し、実際に処方や説明をするときに役立つであろう。特に脳卒中に処方されることの多い短下肢装具(AFO)については、主なAFOの種類と各種足継手について、機能と構造の詳細な図示と説明がされていることは、これまでの類書に見られない本書の独壇場であろう。渡邊先生自身が創案された「すぐ装着できる下肢装具」についても述べられている。

ここで筆者の個人的希望を述べさせてもらえるのであれば、日常生活における実際の使用状況、装具使用によるデメリットなどの装具の問題点についても先生のこれまでの臨床経験についての記述がもっとあつてよかったのではないかと思う。しかしながら、初心者にはわかりやすい手引き書という本書の当初の目的を考えると欲張りすぎであろうか。

初心者はもちろん、ベテランには知識の整理に役立つ本書は、脳卒中リハビリテーションに関係するすべてのスタッフ(職種)の関係者全員が手にするとともに、臨床現場にも常備して欲しい一冊である。

●B6 変型版 208 頁

定価 3,990 円(本体 3,800 円+税 5%)

2007 年 医学書院・刊